



エディに富んでいた。日本人が気づけなかった考察も多く、審査員はもちろんのこと、聴衆も身を乗り出して聞き漏らすまいとするようなスピーチが続いた。



最優秀賞のイエ・メーン・アウンさんにトロフィーを贈る筆者

審査の結果、最優秀賞には「元気が出るラーメンと自分で考えさせる日本語」というテーマで話したミャンマーのイエ・メーン・アウンさん（学生の部）が輝いた。滞在7か月でありながら、日本に来て強く感じた二つのこと、一つはミャンマーの料理の味と共通するラーメンについて、もう一つは、仕事でミスをしたときに日本人に必ず聞かれる「なぜ？」ということについて、思いを論理展開していたことが評価された。

最優秀賞に次ぐ港ユネスコ協会会長賞は「日本人は自分たちの為にももっと自己主張しませんか」というテーマで話したフィリピンのサントス・マリア・ルーデスさん（成人の部）が受賞した。日本の医療制度を悪用する外国人がいることを指摘しつつ、日本政府がきちんとした対策をとるべきことを指摘した政策提言型の内容であった。

審査員特別賞は「さいごの日本 ドラえもん」というテーマで話したオーストラリアのクリフ・ユーン君が獲得した。ドラえもんよりクレヨンしんちゃんに似ていると家族に言われるクリフ君は、ユーモアたっぷりに、日本、韓国、オーストラリアの何が好きかを話し、聴衆の喝采をあびていた。

スピーチ終了後は、審査結果が出るまでの時間を活用して、スピーカーと会場にいる方々との間での交流会を催した。このセッションは前回、思いのほかに盛り上がり評判もよかったため今回も企画した。交流会の全体のファシリテーションを玉川大学ユネスコクラブの小林亮教授にお願いし、小林教授の指導の下に慶應義塾大学ユネスコクラブの学生がファシリテーターとして参加した。



日本語スピーチコンテストの入賞者たち。左からクリフ・ユーン君、イエ・メーン・アウンさん、サントス・マリア・ルーデスさん



スピーカーと聴衆の交流会

という状況設定とファシリテーションさえ上手に行えば、大きな困難はないということがわかる。

冒頭に紹介したようにユネスコ憲章はその前文で、諸国民が相互に風習と生活を知らないことがこれまで不幸な戦争をしばしば引き起こしてきたと記しているが、こうした草の根的な活動が確かに戦争予防につながると実感したコンテストだった。ドイツとフランスは第二次大戦後、八百万人に上る若い人の交流を進めてきたと言われている。世界平和の実現は巨額の軍事費を投入するよりも、人々

全体を四つのグループにわけ、それぞれにスピーカーが3人、聴衆が10人程度ずつ、それにファシリテーターの学生が一人ずつ入るといった形をとった。どのテーブルでもスピーカーの話題からスタートし、その後、和気あいあいと話が大いに盛り上がった。日本では、日本人と複数の外国籍の人が初対面でグループを組んでも、話の盛り上げ方が難しいことが多いが、共通の話題を作りやすいと

の間のコミュニケーションの場を作る方がずっと安上がりで、確実なのではないだろうか。

---

掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。  
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.